【いまきいれ子ども発達支援センターまあるの自己評価をうけて】

「いまきいれ子ども発達支援センターまある（以下「まある」）」さんの自己評価を受けて、以下の3つに絞り気づきを述べたいと思います。

①多職種連携のもと、日々の療育・保護者支援が丁寧になされていること

保育士・PT・OT・心理士が共に療育実践に入り、それぞれの専門性を活かしながら日々のあそびづくりや保護者支援に取り組まれておられます。「子どもを真ん中にチームで親子を支える」ということが大事にされており、それは、子どもたちの生活とあそびといった総合的な視点をもった支援につながっていると思います。職員も基準の人数よりも多く配置されており、子どもたち・保護者の方々への目配り・気配りが細やかになされています。

②地域の中の中核機能の役割をもとに、“つながる”取り組みがなされていること

鹿児島市中央地区にある児童発達支援センターとして、開所当初から近隣の児童発達支援事業所を含め、地区担当の事業所との関係を築き、定期的に現場の声を基にした研修会を開催しています。また、相談の場としてのイベント開催、地域の子育てサロン「こあら」への参画と、地域の方々との手つなぎにも力を入れておられます。

感染面の配慮等から他施設との交流の機会は設けていないとのことですが、在園のお子さんが就園を迎える際には、保護者のこども園や保育園の見学に同行するなど、つなぎの支援も丁寧にしておられます。このような“つながる”取り組みが意識的に行われていることで、今後、地域の中で地域の方々と共に子どもたちの育ちを支える土壌がつくられていくと期待されます。

③子どもたち・保護者の方々の「安心」を一番に考え、運営・実践が行われていること

私は、「まある」は、超早期の支援の場であり、保護者の方々がはじめて「療育」と出会う支援の場であると考えています。評価の中に、「共感的に支援してもらっている」「子どもが通所を楽しみにしている」の項が示しているように、子どもたちも保護者の方々も「まある」が安心の場になっていることが、よく伝わります。

「安心」を生み出すには、細やかな配慮が必要です。ひとつ例をあげると、子どもたちの年齢や発達、体力に応じて、時間設定や小人数のグループが編成されています。子どもたちが安心して楽しく通所してほしいという職員の方々の願いのもと、50名を超える子どもたち一人ひとり実態にあわせて小集団を編成するには、たくさんの時間と職員間の検討がなされたことと推察いたします。また、タイムリーな支援も安心につながります。職員間の共有や連携がなされている様子が、保護者評価のご意見からもうかがうことができました。

以上、報告とさせていただきます。

令和7年3月31日

いまきいれ子ども発達支援センターまある第三者委員

むぎのめ子ども発達支援センターりんく 園長 岩松 まきえ